

土井ヶ浜弥生人の抜歯型式

松下孝幸*・松下真実**・綾香奈江***

【キーワード】：山口県、土井ヶ浜遺跡、弥生人骨、抜歯型式

はじめに

土井ヶ浜遺跡の19次に亘る発掘調査報告書を2014年に刊行したが、その際に風習的抜歯についても記載した。しかし、時間の制約があって、報告書では基礎資料を提示するにとどめざるを得なかった。土井ヶ浜弥生人骨の多数に抜歯が認められ、その型式も多様であることが判明したが、今後の抜歯研究を進めていくために抜歯型式について整理しておくことにした。本稿では土井ヶ浜弥生人の抜歯型式を整理するにとどめ、他の弥生人の抜歯型式との検討は別の機会に詳述したい。

抜歯が認められたのは102例(男43、女57、性別不明2)である。抜歯が存在しないものが28例(男19、女8、小児1)存在する。従って130例中102例に抜歯がみられることになり、施行率は78.5%となり、抜歯の施行率はかなり高い。また、女性の方が男性よりもわずかに多い。

なお、抜歯が認められない個体が28例(男19、女8、小児1)存在するが、無抜歯は男性の方が多い。

抜歯研究では、本来、上顎と下顎の歯槽部がともに残存し、歯槽の状態を確認することが可能なことが前提である。しかし、そのような理想的な残り方はほとんど望めない。従って、抜歯の痕跡が認められれば、抜歯があったとして、確認できたところだけの抜歯型式を記載することになる。このような制限を前提として、土井ヶ浜弥生人の抜歯型式の概要をとらえてみたい。

抜歯型式を細かく分類すれば表1のとおり47型式になり、かなり多様であるが、抜去された歯種に分けて分類すれば、おおよその全体像を把握することが可能である。

抜歯時における優先順序を、①歯の種類(歯種の選択)、②上顎の歯か下顎の歯かの選択(上下の選択)、③右か左かの選択(左右の選択)と考えたい。

1. 抜歯の概要

(1) 歯種の選択

抜歯の対象になった歯の種類は、犬歯、側切歯、中切歯、小白歯であるが、どの歯がもっとも抜去されているのか検討してみた。102例中、犬歯の抜去は68例(男29、女39)にみられ、66.7%が犬歯を抜去しており、犬歯を抜去する例がもっとも多い。側切歯抜去は61例(男25、女34、不明2)(59.8%)にみられ、これもかなり多い。中切歯の抜去は22例(男10、女12)(21.6%)で、小白歯の抜歯は2例(女2)しかなく、わずか2.0%に過ぎない。

犬歯のみの抜去例は30例(男15、女15)、側切歯のみの抜去が21例(男8、女11、性別不明2)、中切歯のみの抜去が5例(男2、女3)、小白歯のみの抜去が1例(女)、犬歯と側切歯の抜去が27例(男10、女17)、犬歯と中切歯の抜去が4例(男1、女3)、中切歯と側切歯の抜去が7例(男4、女3)、犬歯と中切歯および側切歯を抜去するのが6例(男3、女3)、犬歯と小白歯の抜去が1例(女)で、

犬歯のみの抜去例が最も多く、次いで犬歯と側切歯の抜去、側切歯のみの抜去が多く、この3タイプは合計78例(男33、女43、不明2)となり、全体の76.5%を占めている(図1)。

(2) 上下の選択

犬歯と側切歯は上顎でも下顎でも抜去されており、左右両側抜歯、片側抜歯ともに認められる。中切歯は下顎抜去が17例(男6、女11)、上顎抜去4例(男3、女1)、両顎抜去1例(男)で、下顎を抜去する方が多い。小白歯抜去は2例(315、913)存在するが、両者とも女性で下顎の第一小白歯を両側とも抜去している。

また、犬歯は上顎犬歯の抜去が53例(男28、女25)、下顎犬歯の抜去が8例(男1、女7)、両顎犬歯の抜去が5例(女5)で、犬歯は上顎を抜くのが圧倒的に多い。また、下顎の犬歯を抜くのは原則として女性に限られているようである。

側切歯は、上顎側切歯の抜去が44例(男20、女23、不明1)、下顎側切歯抜去が10例(男3、女6、不明1)、両顎側切歯抜去は5例(男1、女4)で、上顎の抜去が多く、下顎の抜去は女性が多い。

(3) 左右の選択

犬歯抜歯のうち両側抜歯は29例(男9、女20)(上顎24、男9、女15)(下顎2、男0、女2)(両顎3、男0、女3)で、上顎抜去が多い。片側抜歯は40例あるが、上顎右側抜去21例(男15、女6)、上顎左側抜去10例(男4、女6)、下顎右側抜去5例(男0、女5)、下顎左側抜去4例(男1、女3)で、やはり上顎が多い。男性では上顎右側の抜去が多い。

側切歯のうち両側抜去は30例(男9、女21)(上顎24、男7、女17)(下顎4、男1、女3)(両顎2、男1、女1)、片側抜歯は29例あるが、上顎右側抜去14例(男11、女3)、上顎左側抜去5例(男2、女2、不明1)、下顎右側抜去6例(男1、女4、不明1)、下顎左側抜去4例(男1、女3)で、片側抜去では上顎右側が多い。

中切歯のうち両側抜去は8例(男2、女6)あり、8例とも下顎の抜去である。片側抜去は12例あるが、上顎右側抜去3例(男2、女1)、上顎左側抜去1例(男1、女0)、下顎右側抜去5例(男2、女3)、下顎左側抜去2例(男1、女1)、その他に上顎左側と下顎右側を抜去したものが1例(男)存在し、中切歯の場合も右側の方が左側よりも多い傾向がみえる。

(4) 単一歯種抜歯と複数歯種抜歯

土井ヶ浜弥生人の抜歯には、単一歯種抜歯と複数歯種抜歯とがみられる。前者は犬歯、中切歯、側切歯、小白歯の各歯種にみられる。後者では2種類の歯の抜去と3種類の歯の抜去がみられる。2種類の歯の抜去では、犬歯と中切歯、犬歯と側切歯、中切歯と側切歯、犬歯と小白歯の4タイプがみられる。3種類の歯の抜去では、犬歯、中切歯、側切歯が抜去されている。

単一歯種抜歯をみると、犬歯のみの抜去は30例(29.4%)(男15、女15)、側切歯のみの抜去は21例(20.6%)(男8、女11、不明2)、中切歯のみの抜去は5例(4.9%)(男2、女3)、小白歯のみの抜去は1例(1.0%)(女)で、合計57例(男25、女30、不明2)となり、単一歯種抜歯が全体の55.9%を占める。複数歯種抜歯では、2種類の歯を抜去する例は39例(38.2%)(男15、女24)で、3種類の歯を抜去する例は6例(5.9%)(男3、女3)しかなく、単一歯種抜歯と2種類歯種抜去で抜歯例の94.1%を占めていることになるが、3種類の歯を抜去する型式もみられるというのも土井ヶ

浜弥生人の抜歯の特徴でもある。

犬歯のみの抜去は 30 例 (29.4%) (男 15、女 15)、側切歯のみの抜去は 21 例 (20.6%) (男 8、女 11、不明 2)、犬歯と側切歯の両方を抜去しているのは 27 例 (26.5%) (男 10、女 17) であるから、この 3 形式は合計 78 例となり、全体の 76.5% を占めており、土井ヶ浜弥生人の抜歯型式は、犬歯と側切歯を単独または両者とも抜去する型式が主流であるといえる。犬歯と側切歯以外の抜去例は、中切歯のみが 5 例 (男 2、女 3)、小白歯のみは 1 例 (女) である。その他に犬歯と中切歯を抜去しているのが 4 例 (男 1、女 3) 存在する。

次に犬歯はどの歯と一緒に抜去されているかをみると、前述しているとおおり、犬歯と側切歯の抜去が 27 例と最も多く、犬歯と中切歯の抜去が 4 例で、犬歯と中切歯・側切歯の抜去が 6 例 (男 3、女 3) 存在する。

側切歯は、犬歯と一緒に抜去される以外に、中切歯との抜去が 7 例 (男 4、女 3) 存在し、犬歯と中切歯も同時に抜去する例が 6 例 (男 3、女 3) ある。

小白歯は、4 本の犬歯と一緒に抜去されている例が 1 例 (女) 存在する。

以上のことを踏まえて、抜去された歯種で、大分類し、切歯については中分類を設け、小分類では上顎と下顎とに分け、細分類で左右を分けた (表 1)。

2. 抜歯型式

土井ヶ浜弥生人の抜歯型式は、単一歯種の抜去と複数歯種の抜去に大別することができる。単一歯種の抜去は犬歯、中切歯、側切歯、第一小白歯である。

1) 単一歯種の抜歯

(1) 犬歯のみの抜歯

犬歯のみを抜去する型式を「C」型とする。

1 C / : 上顎の犬歯のみを片側だけ抜去するタイプ。

2 C / : 上顎犬歯を両側とも抜去するタイプ。

/ 1 C : 下顎の犬歯のみを片側だけ抜去するタイプ。

/ 2 C : 下顎犬歯を両側とも抜去するタイプ。

(2) 中切歯のみの抜歯

中切歯のみを抜去する型式を「I 1」型とする。

1 I 1 / : 上顎の中切歯のみを片側だけ抜去するタイプ。

/ 1 I 1 : 下顎の中切歯のみを片側だけ抜去するタイプ

/ 2 I 1 : 下顎中切歯を両側とも抜去するタイプ。

(3) 側切歯のみの抜歯

側切歯のみを抜去する型式を「I 2」型とする。

1 I 2 / : 上顎の側切歯のみを片側だけ抜去するタイプ。

- 2 I 2 / : 上顎側切歯を両側とも抜去するタイプ
- / 1 I 2 : 下顎の側切歯のみを片側だけ抜去するタイプ
- 2 I 2 / 2 I 2 : 上顎と下顎の側切歯を両側とも抜去するタイプ。

(4) 小白歯のみの抜歯

小白歯のみを抜去する型式を「P」型とする。

- / 2 P 1 : 下顎の第一小白歯を両側抜去するタイプ。

2) 複数歯種の抜歯

(1) 犬歯と中切歯の抜歯

犬歯と中切歯を抜去する型式を「C・I 1」型とする。このタイプは上顎犬歯もしくは下顎犬歯と下顎の中切歯を抜去するタイプしかない。上顎の中切歯は抜去しない。

- 2 C / 1 I 1 : 上顎両側犬歯と下顎中切歯を片側抜去するタイプ
- 1 C / 2 I 1 : 上顎犬歯の片側抜歯と下顎中切歯を両側とも抜去するタイプ
- 2 C / 1 C ・ 1 I 1 : 上顎両側犬歯と下顎中切歯・下顎切歯を片側抜去するタイプ。

(2) 犬歯と側切歯の抜歯

犬歯と側切歯を抜去する型式を「C・I 2」型とする。

- 1 C ・ 1 I 2 / : 上顎の犬歯と側切歯を片側抜去するタイプ。
- 2 C ・ 1 I 2 / : 上顎の両側犬歯と側切歯を片側抜去するタイプ
- 1 C ・ 2 I 2 / : 上顎の片側犬歯と側切歯を両側抜去するタイプ。
- 2 C ・ 1 I 2 / 2 C ・ 1 I 2 : 上顎の両側犬歯と側切歯および下顎の両側犬歯と側切歯を抜去するタイプ。

- / 1 I 2 ・ 1 C : 下顎の犬歯と側切歯を片側抜去するタイプ。

- 1 C / 1 I 2 : 上顎犬歯と下顎側切歯をそれぞれ片側抜去するタイプ
- 2 C ・ 2 I 2 / : 上顎の犬歯と側切歯を両側抜去するタイプ
- 2 I 2 / 1 C : 上顎側切歯の両側と下顎犬歯を片側抜去するタイプ。
- 2 C ・ 2 I 2 / 2 C : 上顎の側切歯と犬歯を両側抜去し、下顎犬歯を両側抜去するタイプ
- 1 C ・ 2 I 2 / 1 I 2 : 上顎の両側側切歯、片側犬歯と下顎側切歯を片側抜去するタイプ。

(3) 中切歯と側切歯の抜歯

中切歯と側切歯を抜去する型式を「I 1・I 2」型とする。

- / 2 I 1 ・ 2 I 2 : 下顎の中切歯と側切歯を両側抜去するタイプ
- 1 I 1 2 I 2 / : 上顎の中切歯の片側抜去と側切歯の両側抜去するタイプ
- / 1 I 1 ・ 1 I 2 : 下顎の中切歯と側切歯をそれぞれ片側抜去するタイプ
- 2 I 2 / 2 I 1 : 上顎の側切歯と下顎の中切歯をそれぞれ両側抜去するタイプ

1 I 2 / 1 I 1 : 上顎側切歯と下顎中切歯をそれぞれ片側抜去するタイプ。

(4) 中切歯、側切歯と犬歯の抜歯

中切歯・側切歯・犬歯を抜去する型式を「C・I 1・I 2」型とする。

2 C・2 I 2 / 2 C・1 I 2・1 I 1 : 上顎の犬歯と側切歯の両側抜去と下顎の両側犬歯、中切歯と側切歯を片側抜去するタイプ

2 C・1 I 2・1 I 1 / : 上顎の両側犬歯と側切歯、中切歯を片側抜去するタイプ

1 C・1 I 1 / 1 I 2・1 I 1 : 上顎犬歯と中切歯を片側抜去し、下顎の中切歯と側切歯を片側抜去するタイプ。

1 C・1 I 2・1 I 1 / : 上顎の犬歯、側切歯、中切歯をそれぞれ片側抜去するタイプ。

/ 2 C・2 I 2・2 I 1 : 下顎の犬歯、側切歯、中切歯をそれぞれ両側抜去するタイプ。

/ 1 C・1 I 2・1 I 1 : 下顎の犬歯、側切歯、中切歯をそれぞれ片側抜去するタイプ

(5) 犬歯と小白歯の抜歯

犬歯と小白歯を抜去する型式を「C・P」型とする。

2 C / 2 C・2 P 1 : 上顎の両側犬歯と下顎の犬歯・第一小白歯を両側抜去するタイプ。

3. 各型式の特徴

(1) C型抜歯

犬歯のみを抜くC型抜歯でもっとも多いのは、上顎犬歯を抜去するもので、犬歯抜去30例中25例存在し、そのうち上顎の両側抜去は11例(男4、女7)で、下顎抜去よりも多い。下顎犬歯の抜去例は5例に過ぎない。上顎の片側抜去は14例(男10、女4)で、男性が女性よりも多く、しかも右側を抜くものの方が多い。

(2) I型抜歯

中切歯のみを抜去するI1型は5例(男2、女3)であるが、下顎の中切歯を抜去する方が上顎よりも多く、片側抜歯が両側抜歯よりもわずかに多い。側切歯のみを抜歯するI2型は21例(男8、女11、不明2)存在するが、上顎を抜去する方が下顎よりも多く、両側抜歯は14例、片側抜歯は7例で、両側抜歯の方が多い。

(3) P型抜歯

小白歯のみを抜去するのはわずか1例(女)のみである。

(4) CI型抜歯

CI型のうち犬歯と中切歯を抜去する「CI1型」はわずか4例(男1、女3)に過ぎないが、4例ともかならず上顎の犬歯を抜き、かつ下顎の中切歯を抜いており、上顎の中切歯を抜くことはない。

CI型のうち犬歯と側切歯を抜去する「CI2型」は27例であるが、上顎を抜くものが20例(男10、女10)で、下顎を抜くもの(女2)と両顎抜くもの(女5)よりも多い。

(5) I1・I2型抜歯

中切歯と側切歯を抜く型式で、7例存在する。上顎抜歯が1例(男)、下顎抜歯が4例(男2、女2)、両顎抜歯が2例(男1、女1)存在する。両側抜歯は5例(男2、女3)である。

(6) C・I1・I2型抜歯

3種類の歯を抜去する型式である。上顎抜歯が2例(男2)で、下顎抜歯は2例(女2)で、両顎抜歯が2例(男1、女1)ある。

(7) C・P型抜歯

犬歯と小白歯を抜去する型式で、1例(女)しかない。この1例は4本の犬歯と下顎の両側小白歯を抜去している。この人骨(人骨番号:315)は、石囲墓(4号石囲墓)から、アマゾナイト製小玉1個、碧玉製管玉1個、貝珠170点を伴って出土した人骨である。

なお、4本の犬歯を抜去している例は、315人骨を含めて3例(4,107,315)しかないが、3例とも女性であること、4と315は石囲墓で、107は四隅配石墓である点にも注意しておきたい。

4. 遺構(墓)形態と抜歯型式

遺構の形態と抜歯型式に規則性があるか、検討してみた(表2)。箱式石棺墓から出土した12体のうち抜歯を確認できたのはわずか3体(男2、女1)であるが、3体に共通しているのは中切歯を抜去していることである。石囲墓から出土した6体の内、抜歯は3例(女3)確認できた。いずれも犬歯を抜去しているが、2体は犬歯を4本とも抜去している。配石墓では12体(男6、女6)に抜歯を確認した。1例を除く11例はすべて上顎抜歯である。また12体のうち四隅配石墓出土の4体(男3、女1)は同型式の抜歯で、上顎の犬歯と側切歯を両側とも抜去する型式であることは興味深い。

要 約

1. 130例中102例(男43、女57、性別不明2)に抜歯がみられ、抜歯施行率は78.5%となり、施行率はかなり高い。また、女性の方が男性よりもわずかに多い。抜歯していない個体が28例(男19、女8、小児1)存在し、男性の方が多い。
2. 抜歯の対象になった歯の種類は、犬歯、側切歯、中切歯、第一小白歯であるが、最も多いのは犬歯抜去で(68例、男29、女39)(66.7%)、次いで側切歯の抜去(61例、男25、女34、不明2)(59.8%)である。中切歯の抜去は少なく(22例、男10、女12)(21.6%)、小白歯の抜歯は2例(女2)しかなく、わずか2.0%に過ぎない。
3. 最も多いのは犬歯のみの抜去(30例、男15、女15)(29.4%)で、次いで犬歯と側切歯の抜去(27例、男10、女17)(26.5%)、側切歯のみの抜去(21例、男8、女11、性別不明2)(20.6%)が多く、この3タイプが全体の76.5%を占めている(78例、男33、女43、不明2)。
4. その他に、中切歯のみの抜去が5例(男2、女3)、小白歯のみの抜去が1例(女)、犬歯と中切歯の抜去が4例(男1、女3)、中切歯と側切歯の抜去が7例(男4、女3)、犬歯と中切歯および側切歯を抜去するのが6例(男3、女3)、犬歯と小白歯の抜去が1例(女)存在する。
5. 犬歯は上顎犬歯の抜去が53例(男28、女25)、下顎犬歯の抜去が8例(男1、女7)、両顎犬歯の抜去が5例(女5)で、犬歯は上顎を抜くのが圧倒的に多い。下顎の犬歯を抜くのは原則とし

て女性に限られているようである。

6. 側切歯は、上顎切歯の抜去が 44 例 (男 20、女 23、不明 1)、下顎側切歯抜去が 10 例 (男 3、女 6、不明 1)、両顎側切歯抜去は 5 例 (男 1、女 4) で、上顎の抜去が多く、下顎の抜去は女性が多い。
7. 中切歯は下顎抜去が 17 例 (男 6、女 11)、上顎抜去 4 例 (男 3、女 1)、両顎抜去 1 例 (男) で、下顎を抜去する方が多い。小白歯抜去が 2 例 (315、913) 存在するが、両者とも女性で下顎の第一小白歯を両側とも抜去している。
8. 犬歯と側切歯は上顎を抜去する方が下顎の抜去よりも多いが、中切歯は下顎抜去の方が多く、小白歯は下顎の抜去のみである。
9. 犬歯の上顎片側抜去では、右側の方が左側よりも優位である。側切歯の上顎抜去でも右側の方が左側よりも多い。中切歯のうち両側抜去は 8 例 (男 2、女 6) あるが、8 例とも下顎の抜去である。
10. 単一歯種抜歯と複数歯種抜歯とがみられ、前者は 57 例 (男 25、女 30、不明 2)(55.9%)、後者は 45 例 (男 18、女 27)(44.1%) で、前者が後者より多い。また、2 種類の歯を抜去する例は 39 例 (男 15、女 24)(38.2%) で、3 種類の歯を抜去する例は、6 例 (男 3、女 3)(5.9%) しかなく、単一歯種抜歯と 2 種類歯種抜歯で抜歯例の 94.1% を占めている。しかし、3 種類の歯を抜去する型式もみられるというのも土井ヶ浜弥生人の抜歯の特徴でもある。
11. 単一歯種抜歯で最も多いのは、犬歯のみの抜去 (30 例、29.4%) (男 15、女 15 例) である。次いで側切歯のみの抜去 (21 例、20.6%) (男 8、女 11、不明 2) で、中切歯のみの抜去は 5 例 (4.9%) (男 2、女 3)、小白歯のみの抜去は 1 例 (1.0%) (女) しかない。
12. 複数歯種抜歯で最も多いのは、犬歯・側切歯の抜去 (27 例、男 10、女 17) である。側切歯・中切歯の抜去 (7 例、男 4、女 3)、犬歯・中切歯・側切歯の抜去 (6 例、男 3、女 3)、犬歯・中切歯の抜去 (4 例、男 1、女 3) は少なく、犬歯・小白歯の抜去はわずか 1 例 (女) にすぎない。
13. 石棺墓出土人骨は中切歯を抜去しており、石囲墓出土人骨には犬歯を 4 本とも抜去する例がみられる。また、四隅配石墓人骨のうち 4 例が上顎の犬歯と側切歯を両側とも抜去する型式であった。
14. 土井ヶ浜弥生人の抜歯型式は、多様であるが、犬歯、側切歯の単一歯種の抜去と両者を共に抜去する型式が基本であり、その他に中切歯の抜去が加わって、結果として多様な型式が存在する。今後、土井ヶ浜弥生人に見られる抜歯型式を基にして、周辺地域の抜歯例との検討をおこなってみたい。

《参考文献》

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、2014、土井ヶ浜遺跡第 1 次～第 12 次発掘調査報告書 (下関市文化財調査報告 35) 第 2 分冊「人骨編」

* Takayuki MATSUSHITA、** Masami MATSUSHITA (特定非営利活動法人人類学研究機構)、

*** Kanae AYA

表 1 土井ヶ浜弥生人の抜歯型式 (凡例：上顎 / 下顎)

大分類	中分類	小分類	細分類	性別	人骨番号	体数
C型	I1型	1C /	C	男	16,132,209,222,233,240,1112-SK10,1112-SK12	8
			C	女	11,310,901	3
	I2型	2C /	C	男	202,226	2
			C	女	109-SK1	1
	I3型	2C /	C	男	907,112-SK7,1112-SK8,1406	4
			C	女	109,134,235,242-1,403,1112-SK13,1604	7
	I4型	1C	C	女	122-MA4	1
			C	男	1112-NA8	1
	I5型	2C	C	女	211,1102	2
			C	女	307	1
小計 30						
I型	I1型	1I ₁ /	I ₁	女	S35-SK1	1
			I ₁	女	110a,112	2
	I2型	2I ₁ /	I ₁	男	250,1108C	2
			I ₁	男	250,1108C	2
	I3型	1I ₂ /	I ₂	男	205,124,1122	3
			I ₂	不明	116	1
	I4型	2I ₂ /	I ₂	男	808,1003,1001A	3
			I ₂	女	119,252,410,422,809,1004A,1110,1112-SK20	8
	I5型	1I ₂ /	I ₂	女	125a	1
			I ₂	不明	122-MA6	1
I6型	2I ₂ / 2I ₂	I ₂	男	117	1	
		I ₂	男	1405	1	
I7型	2I ₂ / 2I ₂	I ₂	女	1,254	2	
		I ₂	女	1,254	2	
小計 21						
P型		2P ₁	P ₁	女	913	1
CII型	2C /	1I ₁ /	C	男	111	1
			C	女	213	1
			C	女	1601	1
CIII型	2C /	1C /	C	女	241	1
			C ₁	女	241	1
小計 4						

表 1 土井ヶ浜弥生人の抜歯型式 (凡例：上顎 / 下顎)

大分類	中分類	小分類	細分類	性別	人骨番号	体数
CII型	1C /	1C /	I ₂ C	女	S27-3	1
			C ₁	男	123,247,1112-SK5,1116	4
	2C /	2C /	C	男	215,1118	2
			C	男	S35-SK2	1
	2C /	2C /	I ₂ C	女	6,8	2
			C ₁	女	131,1108B	2
	2C /	2C /	I ₂	女	110	1
			I ₂	女	312	1
	2C /	2C /	C ₁	女	4	1
			C	女	5,535-MA3	2
2C /	2C /	I ₂	女	104	1	
		I ₂	男	701,1105,1111,244,1112-SK2	3	
2C /	2C /	I ₂	女	1001B	1	
		C	女	1002A	1	
2C /	2C /	C ₁	女	1112-SK21	1	
		C	女	1112-SK21	1	
小計 27						
I1・I2型	2C /	2I ₁ /	I ₁ I ₂	男	1112-MA5	1
			I ₁ I ₂	女	127,914	2
			I ₁ I ₂	男	138	1
I1・I2型	2C /	2I ₁ /	I ₁ I ₂	男	314	1
			I ₁ I ₂	女	1119	1
			I ₁ I ₂	男	212	1
小計 7						
C・II・I2型	2C /	2C /	C ₁	女	107	1
			C	女	107	1

表1 土井ヶ浜弥生人の抜歯型式 (凡例：上顎/下顎)

大分類	中分類	小分類	細分類	性別	人骨番号	体数
		2C・1i ₂ ・1i ₁ /	Cl ₂ h C	男	216	1
		1C・1i ₁ /1i ₁ ・1i ₂	i ₁ C i ₁	男	308	1
		1C・1i ₂ ・1i ₁ /	Cl ₂ h	男	912	1
		/2C・2i ₁ ・2i ₂	Cl ₂ h i ₁ i ₂ C	女	243	1
		/1C・2i ₁ ・2i ₂	Cl ₂ h	女	421	1
						小計 6
C・P型		2C/2C・2P ₁	C C C CP ₁ P ₁ C CP ₁	女	315	1
合計						合計 102

表2 遺構形態と抜歯型式

石棺墓人骨	人骨番号	性別	石棺番号	石棺型式	抜歯の有無	抜歯型式	供伴遺物
	2	男	1号箱式石棺墓	無			
	3	幼児	1号箱式石棺墓	無			
	136-1	男	2号箱式石棺墓	無			
	136-2	男	2号箱式石棺墓	不明(頭蓋無)			
	137	女	2号箱式石棺墓	不明			
	138	男	2号箱式石棺墓			i ₂ i ₁ i ₂	
	139	男	2号箱式石棺墓	不明			
	140	男	2号箱式石棺墓	無			
	250	男	3号箱式石棺墓			i ₁ i ₁	
	251	女	3号箱式石棺墓	不明			
	421	女	4号箱式石棺墓			Cl ₂ h ₁	
	908	男	5号箱式石棺墓	不明			
石囲墓							
人骨番号	性別	石囲番号	石囲型式	抜歯の有無	抜歯型式	供伴遺物	
4	女	1号			Cl ₂ C C i ₂ C		
101	女	2号		不明			
106	女	3号		無			
315	女	4号			C C C P ₁ C CP ₁	アマゾナイト小玉、管玉、貝珠	
901	女	5号			C	貝珠3	
902A	男	6号		不明		ゴウホウラ腕輪、指輪2	
配石墓							
人骨番号	性別	配石の形態	配石の形態	抜歯の有無	抜歯型式	供伴遺物	
107	女	四隅配石墓			Cl ₂ i ₂ C C i ₁ i ₂ C		
131	女	二隅配石墓			Cl ₂ C		
205	男	四隅配石墓			i ₂		
238	女	四隅配石墓		不明			
244	女	四隅配石墓			Cl ₂ i ₂ C		
247	男	四隅配石墓			Cl ₂		
310	女	四隅配石墓			C		
312	女	四隅配石墓			i ₂ Cl ₂		

表 2 遺構形態と抜歯型式

人骨番号	性別	配石の形態	抜歯の有無	抜歯型式		供伴遺物
				I ₂	I ₂	
410	女	二隅配石墓		I ₂	I ₂	
412	女	二隅配石墓	無			
413	女	二隅配石墓	無			
416	男	四隅配石墓	上顎無、下顎不明			
417	女	四隅配石墓	無			
418	男	二隅配石墓	無			
420	男	四隅配石墓	不明			
701	男	四隅配石墓		C ₁	I ₂ C	
801	男	二隅配石墓	上顎不明、下顎無			
904	女	四隅配石墓	不明			
906	男	二隅配石墓	無			
910	乳児	四隅配石墓	不明			
911	男	二隅配石墓	不明			
1103	乳児	三隅配石墓	不明			
1105	男	四隅配石墓		C ₁	I ₂ C	
1111A	男	四隅配石墓		C ₁	I ₂ C	貝製丸玉1、貝小玉4
1113A	不明	二隅配石墓	不明			
1115	男	二隅配石墓	不明			
1116	男	四隅配石墓		C ₁		アマゾナイト小玉1
1305	女	二隅配石墓	無			
1903	幼児	二隅配石墓	無			
1904	小児	四隅配石墓	無			

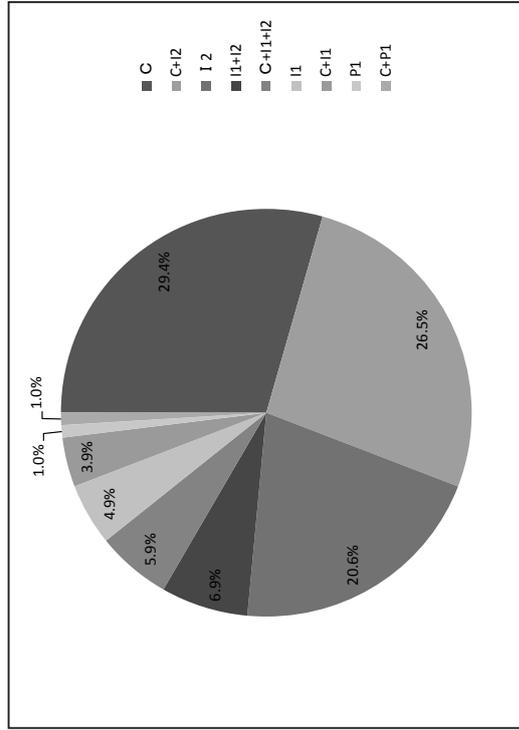


図 1 抜歯型式

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第12号

発行年月日 2017年3月
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8
TEL 083-788-1841
FAX 083-788-1843
印刷 株式会社アート
〒751-0833 山口県下関市武久町1丁目5-14
TEL 083-253-3451
FAX 083-253-3453
